

Woong San / Temptation

ウンサン / テンペテーション
誘惑

時にはクールに囁き、時にはソウルフルに歌いあげる無限の表現力が、心地よい余韻に満ちた深みあるサウンドに抱かれ、今世界に解き放たれた！

アジアのジャズ・ディーヴァ、ウンサンが放つコンテンポラリー・スムーズ・ジャズの新たな提示！

★リー・リトナー(G)、ネイザン・イースト(B)、日野皓正 特別参加！



2015年8月19日発売 ポニーキャニオン PCCY-50075 2,778円+税
Ultimate HQCD 高音質CD

グローバルに活躍するギタリストJack Leeプロデュース
ビル・ウィザーズ、サンタナ、ボブ・マーリー、トム・ウェイツ、アイズリー・ブラザーズ、マリーナ・シヨウなど個性的な楽曲を見事なコンテンポラリー・スムーズ・ジャズにアレンジ！

主なミュージシャン

Jack Lee: guitar

John Beasley/Charles Blenzig: piano, keyboard

Lewis Pragasam/Chris Coleman: drums 他

(株)ポニーキャニオン音楽事業本部 ストラテジック 山下正博 hiro@ponycanyon.co.jp

*アレンジャー、各曲のクレジット確認必要

収録曲 (writers) オリジナル・アーティスト

1. Use me (Words & Music: Bill Withers) Bill Withers
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Acoustic guitars
Charles Blenzig: Piano, Organ
Nathan East : Bass
Charlie Jung: Electric guitar fills
Lewis Pragasam: Drums
Bohye Shin: Background Vocals

2. The look of love (Words & Music: Burt Bacharach/ Hal David) Dusty Springfield
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Electric guitars
Charles Blenzig: Keyboards, Piano
Melvin Davis : Bass
Charlie Jung: Electric guitar fills
Lewis Pragasam: Drums

3. Get up, Stand up Bob Marley
(Words: Bob Marley / Music: Peter Tosh)
(arranged by Jack Lee and Lee Ritenour)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Rhythm guitar
Lee Ritenour: Electric guitar
John Beasley: Piano
Melvin Davis: Bass
Chris Coleman: Drums
Bohye Shin: Background Vocals

4. Light my fire The Doors
(Words & Music: Jim Morrison, Raymond Manzarek, Robert Krieger, John Paul Densmore)
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Acoustic and Electric guitars
Charles Blenzig: Keyboards
Melvin Davis : Bass
Lewis Pragasam: Drums

5. You hurt me

(Words & Music: Woong San)

(arranged by Woong san)

Woong San : Vocal

Kyungin Min : Keyboards, Clavinet

Hogyu Hwang : Bass

Charlie Jung : Electric guitar

Cheolwoo Park : Drums

Hisatsugu Suzuki : Saxophone

6. Black magic woman Fleetwood Mac/Santana

(Words & Music: Peter Green)

(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal

Jack Lee: Acoustic guitar, percussion programming

Charles Blenzig: Keyboards, Bass

Lewis Pragasam: Percussion

7. Papa was a rolling stone The Temptations

(Words & Music: Norman Whitfield/ Barrett Strong)

(arranged by Jack Lee and Woong san)

Woong San: Vocals

Jack Lee: Electric guitar

Lee Ritenour: Electric guitar (solo)

John Beasley: Piano

Melvin Davis: Bass

Chris Coleman: Drums

Terumasa Hino : Trumpet

Bohye Shin: Background Vocals

8. Night away

(music by Jack Lee, lyrics by Annekei, WOOJIN Music BMI)

(arranged by Jack Lee)

Woong San: Vocal

Jack Lee: Electric guitars

Lee Ritenour: Nylon guitar

John Beasley: Piano

Charles Blenzig: Keyboards

Melvin Davis: Bass

Chris Coleman: Drums

Norihito Sumitomo: Horn Section

Annekei : Background vocals

9. Between the sheets Isley Brothers

(Words & Music: Rudolph Isley/ O'Kelly Isley, Jr./ Ronald Isley/ Ernest Isley/ Marvin Isley/ Chris Jasper)
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Electric Guitars and solos (in the middle and outro)
Charles Blenzig: all keyboards and Rhodes solo
Nathan East: Bass
Charlie Jung: Electric guitar fills
Lewis Pragasam: Drums
Bohye Shin: Background Vocals

10. Loving you was like a party Marlena Shaw

(Words & Music: Benard Ighner)
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)

Woong San: Vocal
Jack Lee: Electric guitars
Charles Blenzig: Keyboards, clavinet
Melvin Davis : Bass
John Beasley: Add.Keyboards
Charlie Jung: Electric guitar fills
Lewis Pragasam: Drums
Bohye Shin : Background Vocals

11. Temptation Tom Waits

(Words & Music: Tom Waits)
(arranged by Jack Lee and Charles Blenzig)
Woong San: Vocal
Jack Lee: Electric guitars
Charles Blenzig: Keyboards
Nathan East : Bass
Lewis Pragasam: Drums

12. Someday

(Words & Music: Woong San)
(arranged by Woong San)

Woong San: Vocal
Kyungin Min: Keyboards, Clavinet
Hogyu Hwang: Bass
Charlie Jung: Electric guitar
Cheolwoo Park: Drums

ライナーノート

「あー、この曲か！」そう言いたくて音楽を聴いていることが、この数年多くなった。

カバー・アルバムが多いご時勢ならでは聴き方だと自分では思っている。

今の時代の空気の中で生まれた新曲を聴くのも悪くない。だが、60年代から70年代を経て、80年代にかけて、ワクワクしながら聴いて自分の中に入ってきた音楽は、まるでその時、自分の中にiPODでもあったのではないか、と思えるほど、鮮明に記憶の中にインプットされている。そんな名曲たちは時代を超えて、多くは新しいアレンジで生まれ変わっていて、最初のイントロだけではわからず、Aメロが始まった途端に、強力な磁力で自分の記憶の中の音楽と結びつく。

本作はまさに「あー、この曲か！」が連続する究極のカバー・アルバムでもある。

韓国の女性ジャズ・シンガー、ウンサンの最新アルバムであり、2013年にリリースされた『i love you』から1年8ヶ月ぶりの注目作である。

メジャー・デビュー作を発表して以来、日本のジャズ・シーンの第一線で活躍する気鋭のミュージシャンをバックにした、コンテンポラリー・ジャズ・アルバムをリリースしてきた彼女だが、本作はこれまでのアルバムとはやや趣きを異にする内容だ。

というのは、取り上げている楽曲は60年代～80年代に誕生したロック、ポップス、R&B、レゲエの名曲群がほとんど。そのプロデュースには“韓国のパット・メセニー”の異名を持つギタリスト、プロデューサーであるジャック・リー。そして参加ミュージシャンは豪華。ゲストにはフュージョン界のトップ・ギタリストであるリー・リトナー、ベースにはフォープレイの中心メンバーで知られるネイザン・イースト、そしてトランペットの日野皓正が名を連ねる。バックは海外の実力派ミュージシャンたちで、キーボードのチャールズ・ブレンジック、ジョン・ビズリー、ベースのメルヴィン・デイヴィス、ドラムスのルイス・プラガサムらジャック・リーとリー・リトナーのそれぞれのバンド・メンバーの混合チームともいえるような面々。

これらのメンバーゆえ、そのサウンドはコンテンポラリーでややスムーズ・ジャズ・テイストに溢れており、ウンサンのディスコグラフィーの中ではかなり洗練された一作といえよう。元々ビリー・ホリデイの歌に影響を受けてジャズ・ヴォーカルを志した経緯がある彼女だが、いつも心のどこかで、フォープレイのようなスムーズ・ジャズにも憧れをもっていたようで、今回はその夢が実現したということになる。

このスムーズ・ジャズ・プロジェクト始動のきっかけはジャック・リーとボブ・ジェームスの2009年の共演盤『ボレロ』の中の1曲“エイプリル”にウンサンが深くインスパイアされていて、ジャックに相談を持ちかけたことによる。それにより、2014年の韓国での

コンサート『Sweet Jazz Fantasy Woong san & Lee Ritenour』でリー・リトナーとの共演によるスムーズ・ジャズの豪華ライブが行われ、アルバム・リリースの話が持ち上がったのだ。

持ち味のソウルフルな歌声とゴージャスなメンバーによるスムーズ・ジャズ・サウンドとのランデヴー。そんな1曲1曲が興味深い今回のこのアルバム、曲を順に追っていくことにしよう。

1. Use me

R&Bシンガーのビル・ウィザーズの1972年のヒット・ナンバー。オリジナルはクラヴィネットのリフが印象的（本トラックではギターとピアノによる）。ビル・ウィザーズといえば1980年のグローヴァー・ワシントンJrとの“ジャスト・ザ・トゥ・オブ・アス”もクリスタルな世代には懐かしい。アレンジはジャック・リーとキーボードのチャールズ・ブレンジック。ネイザン・イーストのグルーヴィなベースも絶品。ウンサンのソウルフルなヴォーカルがグイグイと盛り上げる。

2. The look of love

バート・バカラック作曲のムーディな名曲であり、元々は66年の007映画『カジノ・ロワイヤル』のために書かれ、イギリスの女性シンガー、ダスティ・スプリングフィールドが歌ったものがオリジナル。ダイアナ・クラールらのジャズ・カバーも有名。こちらもジャック&チャールズのアレンジによる。ウンサンのスムーズなヴォイスが物憂げな都会の雰囲気伝える。

3. Get up, Stand up

1973年のボブ・マーリーのザ・ウェイラーズ名義のアルバム『バーニン』の1曲目に収録されているナンバー。アレンジはジャックとリー・リトナー。リー・リトナーのギター・ソロもバッチリとフィーチャーされており、2001年のリトナー自身のボブ・マーリーのカバー・アルバム『ア・ツイスト・オブ・マーリー』の中で同曲を取り上げていたのが思い出される。洗練されたレゲエのリズムの上をウンサンがうねるように歌う。

4. Light my fire

ジム・モリソンが在籍したザ・ドアーズの1967年のナンバー。オリジナルはレイ・マンザレクのオルガンのイントロが印象的なややアップナーなアレンジが特徴だが、ここではジャックのアコースティック・ギターも取り入れたボッサのフレーヴァーが漂う、クール・ダウンしたアレンジが施されている。ウンサンもささやくような歌唱で温度を下げる。

5. You hurt me

本作ではウンサン自身のオリジナルは2曲収録されており、その内の1曲がこちら。バックのメンバーはほぼ韓国人のプレイヤーで長年ウンサンと行動をとともにしてきた盟友たち。ソプラノ・サクソには過去にウンサンのレコーディングでもお馴染み、大野雄二&ルパンティック・ファイヴで活躍中の鈴木央紹が参加。ジャジー・ボッサ風のリズム・アレンジに、シンプルなマイナー・コードの繰り返しのコード進行の上をウンサンが情感をこめて歌い上げる。

6. Black magic woman

この曲はサンタナの1970年のヒットのおかげもあり、ラテン・ロックの名曲として知られているが、原曲はフリーウッド・マックが1969年に発表したもの。サウンド、リズムともにオリジナルとは一味違ったアレンジで、ジャックのアコギ、チャールズのキーボード&ベース、ルイス・ブラガサムのパーカッションというシンプルな編成でジャジーに聴かせている。

7 Papa was a rolling stone

これまで数々のカバーで知られる名曲で、テンプテーションズの1973年のヒット・ソング。ジャック・リーとウンサンによるアレンジも粋であり、イントロが始まるやいなや、日野皓正のフリーキーなトランペットが響きわたる。ソウルフルなウンサンのヴォーカルがワン・コーラスを歌い上げると、今度はリー・リトナーのボトルネックによるギター・ソロが続く。2コーラス後に日野皓正のソロが再び炸裂。メルヴィン・デイヴィスのスラッピング・ベース・ソロもフィーチャアされ、どんどんヒート・アップしてゆく様は圧巻。

8. Night away

ジャック・リー作曲のアーバン・テイストに満ちたオリジナルで、作詞はジャジー・ポップ系女性シンガーのアンナ・ケイ。ジャックとアンナはかつてレコーディング、ライブで共演した仲だ。ギターはエレクトリック・ギターがジャック、ナイロン弦アコースティック・ギターがリー・リトナー。ピアノにはジョン・ビーズリー、ホーン・セクションは住友紀人が担当。そしてアンナ・ケイのバックグラウンド・ヴォーカルも聴ける。ウンサンはソフトなハイトーンでスウィート&ゴージャスにきめる。

9. Between the sheets

コーラス・ワークの美しさが光るアイズレー・ブラザーズの1983年の人気曲。ハーフタイム・シャッフル風の16ビートのドラムスに、ズーンとした低音でからんでくるネイザン・イーストのベースは聴きもの。ジャック・リーの巧みなギター・ソロ、オブリガートも随所にちりばめられ、スムーズ・ジャズ・サウンドの中に映えるウンサンのアトモスフェリックなヴォーカルが素晴らしい。

10 Loving you was like a party

ソウル・ジャズ・ディーヴァとして今なお人気のあるシンガー、マリーナ・ショウの1974年の人気アルバム『フー・イズ・ディス・ビッチズ・エニウェイ』の中の1曲で作曲はプロデューサーのベナード・アイグナーによるもの。オリジナルのディープなフィーリングを損なうことなくウンサンは表情豊かな歌唱で、クラヴィネットがフィーチャアされるファンキーなアレンジの中、見事に歌い上げる。

11 Temptation

孤高のシンガー・ソングライター、トム・ウェイツの1987年発表のアルバム『フランクス・ワイルド・イヤーズ』に収録のナンバーでオリジナル・ヴァージョンでは本来シャガレ声のトム・ウェイツがキテレツなファルセットで歌い上げているのが魅力。ここでのウンサンは時にルーズに、時にタイトにヴォーカルをコントロールしてみせる。どっしりとしたベース・ラインはネイザン・イースト。ジャック・リーのギター・ソロが光る。

12 Someday

ラストはウンサンの2曲のオリジナルのうちのもう一つ。バックは気心しれた韓国のミュージシャンたちが参加。彼女にしてみれば、自身の曲ゆえ、自分の感情を上手く表現できるメンバーとやりたかったとのこと。8分の6拍子のゆったりしたリズムとカントリー・サイドの情景を思わせるサウンドが魅力であり、まさに本作のクロージング・ソングにふさわしい。「さよならなんて言わない。ずっといっしょだから」

本作はウンサンの新境地であり、新たな方向性を打ち出したものといえそうだ。

ウンサン&スムーズ・ジャズ・サウンドで、もっと他のいろいろな洋楽名曲カバーも聴いてみない？という“誘惑”がこのアルバムにはいっぱい詰まっている。

2015年7月
馬場 雅之